

航空従事者技能証明学科試験例題集  
自家用操縦士（上級滑空機）

2026年6月

## 航空工学 (P 2 6)

### 例題 1

標準大気に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 空気は乾燥した完全ガスであること。
- (2) 海面上における温度が  $15\text{ }^{\circ}\text{C}$  であること。
- (3) 海面上における気圧が、水銀柱  $760\text{mm}$  であること。
- (4) 海面上から温度が  $-46.5\text{ }^{\circ}\text{C}$  になるまでの温度の勾配は  $-0.0065\text{ }^{\circ}\text{C/m}$  であり、それ以上の高度では零であること。

正答 (4)

### 例題 2

滑空機の耐空類別について誤りはどれか。

- (1) 普通の飛行及び曲技飛行に適するものは滑空機曲技 A である。
- (2) 普通の飛行及びきりもみ、普通宙返りに適するものは滑空機実用 U である。
- (3) 滑空機曲技 A、滑空機実用 U に含まれないものは特殊滑空機 X である。
- (4) 普通の飛行に適するものは滑空機実用 U である。

正答 (3)

### 例題 3

風圧分布と風圧中心に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 翼の周りの圧力は流速によって変化しているが、圧力が変化する状態を風圧分布という。
- (2) 翼の周りの圧力を代表する点を風圧中心という。
- (3) 風圧中心は、迎え角の変化により移動するが、滑空機の安定性や翼の構造について好ましい性質ではない。
- (4) 風圧中心は、通常は前縁から  $25\%$  付近にあるが、迎え角が大きくなると後方に移動する。

正答 (4)

### 例題 4

揚力について正しいものはどれか。

- (1) 揚力は速度に反比例する。
- (2) 揚力は揚力係数に反比例する。
- (3) 揚力は空気密度に比例する。
- (4) 揚力は気圧高度に比例する。

正答 (3)

### 例題 5

ポーラーカーブについての記述で誤りはどれか (ただし風による影響はないものとする。)

- (1) ポーラーカーブは滑空機の型式毎に違う。
- (2) 原点からポーラーカーブに引いた接線が接する点は最小沈下速度である。
- (3) ポーラーカーブは対気速度と沈下率の関係を示したグラフである。
- (4) ポーラーカーブは滑空機の重量により変わる。

正答 (2)

#### 例題 6

翼の平面形に関する特徴について誤りはどれか。

- (1) 後退翼は後退角が大きいほど翼端失速を起こしやすい。
- (2) 先細翼 (テーパ翼) は翼面積が同じ矩形翼より抗力が小さい。
- (3) 矩形翼は同等の大きさの楕円翼より誘導抗力が大きい。
- (4) 前進翼は翼の取り付け部をコックピット前方においたまま揚力発生部を後方に移動するために用いられる。

正答 (4)

#### 例題 7

上反角とその効果に関する説明で誤りはどれか。

- (1) 中翼機は胴体による上反角効果は得られない。
- (2) 機体が傾いて横滑りに入ったとき上反角があると左右の翼に迎え角の差を生じ、滑った側の翼の迎え角が大きくなるので、揚力は増加し傾きを直す復元力を生じる。
- (3) 上反角効果は主として飛行機の方向安定に影響する効果である。
- (4) 上反角とは、機体を水平に置いたとき、翼を前方から見て翼端が翼根元に対して高くなっていく度合いを水平面に対してなす角である。

正答 (3)

#### 例題 8

縦横比の記述のうち、「 」で囲まれた部分 (1) ~ (4) の中で誤りはどれか。

誘導抗力に直接的な関係を持つのが縦横比で、縦横比が (1) 「大きい」ほど誘導抗力は (2) 「小さく」なって揚抗比は (3) 「向上する」。縦横比を大きくすると (4) 「翼厚が大きくなる」なり安定もよくなる。

- (1) 大きい
- (2) 小さく
- (3) 向上する
- (4) 翼厚が大きくなる

正答 (4)

#### 例題 9

抗力に関する記述について誤りはどれか。

- (1) 航空機全体の抗力は有害抗力と誘導抗力に分けられる。
- (2) 誘導抗力は揚力の発生とは関係がない。
- (3) 形状抗力は揚力には関係がない。
- (4) ダイブブレーキは抗力を増大させるためにある。

正答 (2)

#### 例題 10

フラップに関する特徴について誤りはどれか。

- (1) 単純フラップは大きい角度に下げると気流の剥離を生じるため下げ角が制限され、最大揚力係数もあまり大きくできない。
- (2) スプリット・フラップは後縁部に強い剥離を生じるため着陸のみに使われる。
- (3) 隙間フラップは下げ角を小さくすれば揚抗比が向上し離陸に用いることができる。
- (4) フラップにはキャンバを大きくする効果はない。

正答 (4)

#### 例題 11

アドバース・ヨーに関する記述で誤りはどれか。

- (1) アドバース・ヨーは補助翼を操作したときの左右の翼の抗力差が原因で発生する。
- (2) 旋回の為に機体を傾けた方向と逆の方向に機首を向ける現象のことである。
- (3) 補助翼の上下の舵角が等しい場合、上がった側の補助翼の抗力は大きく、下がった側の補助翼の抗力が少ない。
- (4) アドバース・ヨーの対策の一つとして差動補助翼がある。

正答 (3)

#### 例題 12

失速速度についての記述で正しいものはどれか。

- (1) バンク角 45 度で水平旋回中の失速速度は水平直線飛行時の失速速度と変わらない。
- (2) 水平旋回中の失速速度は水平直線飛行時の失速速度よりも大きくなる。
- (3) バンク角 30 度で水平旋回中の失速速度は、バンク角 60 度で水平旋回中の失速速度と同じである。
- (4) 水平旋回中のバンク角が大きくなればなるほど失速速度は小さくなる。

正答 (2)

#### 例題 13

トータルエナジー昇降計について誤りはどれか。

- (1) 対気速度の変化を検出して、それによって起こる上昇や降下の指示を打ち消すことができる。
- (2) 気流中に支えられたベンチュリーとバリオメータの静圧をつないだものがよく使われる。

- (3) 対気速度が減少すると、ベンチュリーによる負圧が降下による静圧の増加を打ち消し、昇降計の静圧口の圧力変化を穏やかにする。
- (4) 機体の上昇・降下速度に関係なく、空気塊の垂直方向の動きを指示するバリオメータはネットバリオメータシステムと呼ばれる。

正答 (3)

#### 例題 14

ピトー管式対気速度計についての説明で誤りはどれか。

- (1) ピトー管で動圧を測定する。
- (2) 静圧口で静圧を測定する。
- (3) 全圧と静圧の差は動圧である。
- (4) 動圧が分からなければ対気速度の測定はできない。

正答 (1)

#### 例題 15

着氷の影響について誤りはどれか。

- (1) 翼に着氷すると抗力が増加する。
- (2) 翼に着氷すると失速速度が増加する。
- (3) 静圧孔に着氷すると高度計の指示が 0 ft を示す。
- (4) 静圧孔に着氷すると、静圧孔が塞がった高度よりも低い高度では、速度計は実際の速度よりも速い速度を示す。

正答 (3)

#### 例題 16

滑空機に装備されている操縦装置及び操作装置の色識別の組み合わせで誤りはどれか。

- (1) 曳航離脱装置：白
- (2) エア・ブレーキ：青
- (3) 縦のトリム：緑
- (4) キャノピー投下装置：赤

正答 (1)

#### 例題 17

機体に装備された対気速度計が表す速度はどれか。

- (1) 真対気速度 : T A S
- (2) 較正対気速度 : C A S
- (3) 等価対気速度 : E A S
- (4) 指示対気速度 : I A S

正答 (4)

### 例題 18

磁気コンパスの誤差に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 加速度誤差は北半球では、加速時に南に偏った指示になり、減速時には北に偏った指示となる。
- (2) 加速度誤差は機体が東または西に向かっている場合に最も顕著に現れる。
- (3) 北旋誤差は北半球では北の方 ( $270^\circ$  から  $90^\circ$  の北半分) に向かっている場合には、旋回しようとする方向と逆の方向の誤差が現れる。
- (4) 北旋誤差は旋回時に北または南に向かったときに最も大きく現れる。

正答 (1)

### 例題 19

重量重心位置について誤りはどれか。

- (1) 基準線はメーカーや機種によって異なる。
- (2) 重心位置のことを基準線 (リファレンス・デイトム) ともいう。
- (3) 重心位置が後方過ぎる場合、操作に対する反応は良くなるが安定性が悪くなる。
- (4) 重心位置の表示には、MAC (空力平均翼弦) の%で示す方法がある。

正答 (2)

### 例題 20

重量 600kg、重心位置が基準点後方 6cm の滑空機の重心位置をあと 1cm 後方に移したい。

何 kg のバラストを取り下ろしたら良いか。ただし、バラスト搭載位置は基準点前方 53cm である。

- (1) 6kg
- (2) 10kg
- (3) 12kg
- (4) 15kg

正答 (2)

## 空中航法 (P 4 9)

### 例題 1

航法の 3 作業について誤りはどれか。

- (1) 航空機の位置を確認すること。
- (2) 航空機の針路を算出すること。
- (3) 所要の地点における高度を予想すること。
- (4) 所要の地点における到達時刻を予想すること。

正答 (3)

### 例題 2

ランバート図について正しいものはどれか。

- (1) 航程線は直線となっている。
- (2) 直角座標で地点の記入や読み取りが易しく作図が便利である。
- (3) 赤道と子午線以外の大圏は、赤道から遠ざかる曲線になる。
- (4) 円錐投影法を利用して作成されたものである。

正答 (4)

### 例題 3

A 地点から B 地点に向け滑空することを計画した。滑空機の進行方向に対して左真横から風が吹いていた場合、B 地点上空に到達するための飛行方法でもっとも正しいものはどれか。

- (1) 風の影響は受けないため偏流修正は必要ない。
- (2) 偏流修正は難しいので B 地点の風下側の地点へ到達することは避けられない。
- (3) 左側に膨らんだ航跡となるため、予め右に偏流修正をとって滑空する。
- (4) 右側に膨らんだ航跡となるため、予め左に偏流修正をとって滑空する。

正答 (4)

### 例題 4

方位及び距離について誤りはどれか。

- (1) 真針路とは、航空機を通る子午線の真北から機首方向までの真方位をいう。
- (2) 日本付近の偏差は「W」で表し、磁北が真北の東側にある。
- (3) 羅北が磁北の西に偏するのを自差「W」という。
- (4) 緯度 1 分の距離は約 1nm である。

正答 (2)

### 例題 5

磁針路について正しいものはどれか。

- (1) 羅針路に偏差を加えたものである。

- (2) 航空機の機首の向いている方向で、磁北からの角度である。
- (3) 機位を通る子午線と、機首尾線のなす角を真方位で表したものである。
- (4) 航空機が飛行した航跡と、その航空機の位置を通る子午線とのなす角度である。

正答 (2)

#### 例題 6

時間に関する記述で正しいものはどれか。

- (1) 日本標準時は西経  $135^\circ$  の子午線の LMT を共通の時刻としている。
- (2) 世界標準時の 0335 (Z) は 日本時刻の 0335 (I) である。
- (3) 日本標準時は協定世界時に 8 時間加えた時刻である。
- (4) グリニッジ子午線から東西 15 度毎の子午線を各時刻帯の地方標準子午線とし、1 時間の差をつけてある。

正答 (4)

#### 例題 7

IAS 一定で飛行している時の TAS の記述で正しいものはどれか。

- (1) 外気温度が低くなると、TAS は減少する。
- (2) 気圧高度が高くなると、TAS は減少する。
- (3) 空気密度が変化しなくても、TAS は変化する。
- (4) 風が変化しても、TAS は変化する。

正答 (1)

#### 例題 8

次の速度の換算で、最も近いものはどれか。

- (1) 65 km/h は、「100 kt」である。
- (2) 80 km/h は、「43 kt」である。
- (3) 98 km/h は、「130 kt」である。
- (4) 86 km/h は、「52 kt」である。

正答 (2)

#### 例題 9

次の速度の換算で最も近いものはどれか。

- (1) 45 km/h は「100 kt」である。
- (2) 70 km/h は「31 kt」である。
- (3) 88 km/h は「130 kt」である。
- (4) 96 km/h は「52 kt」である。

正答 (4)

#### 例題 10

真方位の定義について、正しいものはどれか。

- (1) 真子午線を基準とする方位をいう。
- (2) 磁気子午線を基準とする方位をいう。
- (3) 羅針盤の北（羅北）を基準にして真方位と同様に表示したもの。
- (4) 子午線と航空機の機首尾線のなす角を真方位で表したもの。

正答（1）

#### 例題 11

偏差について誤りはどれか。

- (1) 地磁気は、大変複雑で場所によって方向も強さも違う。
- (2) 磁気子午線は、必ずしも直線とはならない。
- (3) 偏差の等しい地点を結んだ線を等偏差線といって、航空図に記載してある。
- (4) 地磁気は変化しない。

正答（4）

#### 例題 12

対気速度 90 km/h で滑空比 30 の滑空機が、静穏な大気中を同速度で 6.0 km 滑空する場合、失う高度で最も近いものはどれか。

- (1) 100 メートル
- (2) 150 メートル
- (3) 200 メートル
- (4) 300 メートル

正答（3）

#### 例題 13

対気速度 110 km/h で滑空比 30 の滑空機が、正対の向い風 10 m/s を受けて上昇気流及び下降気流のない大気中を 7.4 km 滑空する場合の所要時間はどれか。

- (1) 5分 00秒
- (2) 5分 20秒
- (3) 5分 40秒
- (4) 6分 00秒

正答（4）

#### 例題 14

位置通報についての記述で誤りはどれか。

- (1) 有視界飛行方式により飛行する航空機が着陸その他の目的で管制圏に進入しようとするときは、許可又は指示を受けるため各空港等毎に定められている管制圏外の目視位置通報点又は任意の地点の上空で、現在位置、高度、機長の意向及びその他必要な事項を管制機関に通報すること。

- (2) 有視界飛行方式又は特別有視界飛行方式により管制圏内を飛行するときは、管制圏内の目視位置通報点での通報等を指示されることがある。
- (3) 福岡 FIR 内を飛行する航空機は、すべて定められた地点及び要求された地点において、所定の方法により位置通報を行わなければならない。ただし、管制機関により「レーダーコンタクト **RADAR CONTACT**」を通報されたのちは「レーダーコンタクト・ロスト **RADAR CONTACT LOST**」又は「レーダー業務を終了します **RADAR SERVICE TERMINATED**」の通報があるまで、特に指示がない限り位置通報を行わないことができる。
- (4) 前回位置通報中、予定通過時刻等の内容変更が必要となったときは遅滞なく訂正の通報を行わなければならない。この場合、時間の訂正を要する範囲は、30 分を超える場合とする。

正答 (4)

#### 例題 15

低酸素症についての記述で誤りはどれか。

- (1) 低酸素症の影響を自ら認識することは難しい。
- (2) 飛行高度の増大、つまり大気圧の減少に対応して低酸素症の傾向は増大する。
- (3) 視野の灰白化が起きることがあるが、判断力、記憶力、警戒心の低下が起きることはない。
- (4) 指の爪と唇にチアノーゼが現れやがて失神する。

正答 (3)

#### 例題 16

耳閉塞に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 耳管の通気が困難になり、中耳内と外気の気圧差が増大する現象を耳閉塞という。
- (2) 耳閉塞が極端な場合は、飛行中または着陸後に鼓膜が破れることもある。
- (3) 耳閉塞は、速やかに降下または着陸すればすぐに治まる。
- (4) 風邪、咽喉の痛みなど呼吸器系の病気または鼻アレルギー状態にあるときは、耳閉塞を発症しやすい。

正答 (3)

#### 例題 17

見張りに関する記述で誤りはどれか。

- (1) 他機に対する空中監視は衝突防止の要である。
- (2) 効果的なスキヤニングは空域の一定部分を中央視野に合致させるため、眼を規則正しく短い時間ごとに移動することによって行うことができる。
- (3) 空中衝突はほとんどの場合 IMC または、それに近い気象状態で起こっているため、良好な天気であれば見張りの重要度は高くない。

- (4) コックピット内の物標と遠距離の目標との間で視点を移動する場合、焦点を合わせるのに数秒かかるということを認識しておく必要がある。

正答 (3)

#### 例題 18

着陸のために進入中、実際の高さよりも低いところにいるような錯覚を生ずるもので正しいものはどれか。

- (1) 通常より狭い幅の滑走路に進入するとき
- (2) 下り勾配の滑走路に進入するとき
- (3) 風防に雨が当たる状態で滑走路に進入するとき
- (4) 積雪に覆われた広く平らな地形に進入するとき

正答 (2)

#### 例題 19

飛行中の錯覚に関する記述で誤りはどれか。

- (1) 平衡感覚を信頼することによって防止することができる。
- (2) 飛行中に遭遇する各種の複雑な運動と外力及び外景の視認などにより生ずる。
- (3) 滑空機を操縦していても空間識失調に陥ることがある。
- (4) 長時間の定常旋回中に急に頭を動かすと、まったく異なった軸で旋回もしくは運動しているような錯覚が起きやすい。

正答 (1)

#### 例題 20

飛行場対空援助業務が実施されている空港等における目視位置通報点について説明した文章中の「 」(1)～(4)のうち誤りはどれか。

有視界飛行方式により飛行する航空機が着陸その他の目的で空港等の(1)「標点」を中心とする半径(2)「5NM」の円内の空域を空港等の標高から(3)「3,000 フィート」以下の高度で飛行しようとするときは、各空港等毎に定められている目視位置通報点又は空港等の(1)「標点」から(2)「5NM」以遠の任意の地点の上空で、現在位置、(4)「速度」、機長の意向及びその他必要な事項を飛行場対空援助業務実施機関に通報すること

- (1) 「標点」
- (2) 「5NM」
- (3) 「3,000 フィート」
- (4) 「速度」

正答 (4)

## 航空気象 (P 2 2)

### 例題 1

大気についての記述で誤りはどれか。

- (1) 大気の乾燥空気成分の体積比は、窒素が約 78%、酸素が約 21%で他の成分はごく少ない。
- (2) 大気成層を気温の鉛直分布により分類すると、対流圏、乱流圏、電離圏、熱圏、外気圏に分けられる。
- (3) 標準大気における対流圏の気温減率は、約 2°C/1,000ft である。
- (4) 対流圏内では、上下の気流の対流がさかんにおこり、雲や雨など天気と密接な関係をもっている。

正答 (2)

### 例題 2

標準大気における指定気圧面に対応する概略の高度で誤りはどれか。

- (1) 500hPa : 約 18,000ft
- (2) 700hPa : 約 10,000ft
- (3) 850hPa : 約 5,000ft
- (4) 1,013hPa : 約 1,000ft

正答 (4)

### 例題 3

熱の移動についての記述で誤りはどれか。

- (1) 大気は、常に熱を得たり、失ったりしており、熱は風のために地球上のある地点から他の地点へと運ばれている。熱の損失が不均衡なので空気は常に動いており、その運動と熱の移動は直接風となり、天気となって現れる。
- (2) 伝導とは、暖かい方から冷たい方へ接触によって熱が伝わることである。
- (3) 対流とは、空気の上下の流れによって熱が伝わることである。
- (4) 昇華とは、電波や光波の場合と同様に放射された波の形式で熱が伝わることをいう。

正答 (4)

### 例題 4

気温の日変化についての記述で誤りはどれか。

- (1) 気温の日変化では、14時頃が最高となり、日出頃が最低となる。
- (2) 気温の日変化の幅は、季節や気候帯によって、かなり大きく変化する。
- (3) 気温の日変化の最低・最高温度の差は、厚い植物層の上で大きく、時に 30°C くらいになることもある。
- (4) 気温の日変化の差は、上空では次第に小さくなり、1500m以上の高度では昼夜の気温差は

ほとんどない。

正答 (3)

#### 例題 5

航空機の運航に関する温度の記述 (a)、(b) について、正誤の組み合わせで正しいものはどれか。

- (a) 温度が高いと空気密度が増し航空機の性能が高まる。
- (b) 航空機の温度計は、太陽の放射や高速状態での空力的な効果及び摩擦などにより誤差を免れない。

- (1) (a) 正、(b) 正
- (2) (a) 正、(b) 誤
- (3) (a) 誤、(b) 正
- (4) (a) 誤、(b) 誤

正答 (3)

#### 例題 6

水の相変化について誤りはどれか。

- (1) 水蒸気は  $100^{\circ}\text{C}$  以上でないと存在できない。
- (2) 対流圏下部の大気中には必ず水蒸気が存在している。
- (3) 液体水の表面では常に水分子の出入りが起こり、出る方が入る方より多いと蒸発が起こり、入る方が出る方より多いと凝結が起こる。
- (4) 水分子の出入りが均衡した状態は飽和状態であり、水蒸気と液体水または氷は定常状態を保って共存する。

正答 (1)

#### 例題 7

水蒸気量の表し方について誤りはどれか。

- (1) 相対湿度：現在の水蒸気圧とその温度の飽和水蒸気圧との比をパーセントで表すもの。
- (2) 絶対湿度：水蒸気の密度であり、単位体積の空気中に含まれる水蒸気量をパーセントで表すもの。
- (3) 水蒸気圧：大気的全圧力のうち水蒸気が占める分圧。
- (4) 混合比：単位体積中の水蒸気の質量と乾燥空気の質量との比をいい、通常乾燥空気  $1\text{ kg}$  に対する水蒸気のグラム数で表すもの。

正答 (2)

#### 例題 8

雲についての記述で誤りはどれか。

- (1) 雲とは、空気中の水蒸気が凝結または昇華して水滴または氷晶となり、空高く浮かんでいるものである。

- (2) 雲を成因によって分類した場合、前線性の雲、対流によってできる雲、気流の収束によってできる雲、地形によってできる雲などがある。
- (3) レンズ雲は、風が弱く、風向が定まらない時に発生しやすい。
- (4) よく晴れた日に地表面近くの空気が熱せられてできる積雲型の雲は、対流によってできている。

正答 (3)

#### 例題 9

10 種雲形のうち、高積雲の記号で正しいものはどれか。

- (1) Ac
- (2) Cs
- (3) Ns
- (4) Cc

正答 (1)

#### 例題 10

積雲の記述で誤りはどれか。

- (1) 積雲は通常上空にランダムに分布するが、条件が良ければ、積雲はクラウドストリートと呼ばれる長い帯となって、50 マイル以上伸びることがある。
- (2) 積雲が発達すると雄大積雲と呼ばれることもある。主として水滴の集まりだが、雪片が含まれていることもある。
- (3) 鉛直に盛り上がっている雲で、その上面はドーム型をしているが、底はほとんど水平である。
- (4) 積雲は、ほとんど一様な雲層で暗灰色を呈している。下にちぎれ雲が発生することが多い。

正答 (4)

#### 例題 11

寒気団の特性について正しいものはどれか。

- (1) 気流は滑らかである。
- (2) 安定度は安定な気温減率である。
- (3) 視程は悪い。
- (4) 天気はしゅう雨、雷雨、雹、あられ、にわか雨である。

正答 (4)

#### 例題 12

日本付近にあらわれる気団について正しいものはどれか。

- (1) オホーツク海気団は主として冬季にあらわれる。
- (2) シベリア気団は主として梅雨期にあらわれる。
- (3) 長江（揚子江）気団は主として春夏の候にあらわれる。

(4) 小笠原気団は主として夏季にあらわれる。

正答 (4)

#### 例題 13

前線の持つ一般的性質の記述で誤りはどれか。

- (1) 前線は気圧の低い谷（トラフ）の中に存在することが多い。
- (2) 移動している前線は、前線を境にして気圧の変化傾向が違ふ。
- (3) 風は、前線を境にして高気圧的に変わる。
- (4) 前線を境にして露点温度差がある。

正答 (3)

#### 例題 14

低気圧周辺の空気の流れについて誤りはどれか。

- (1) 中心では上昇気流が生じ上空で外へ吹き出す。
- (2) 維持・発達するためには、下層での流入量以上の量の空気が上層で流出していることが必要である。
- (3) 上空には空気の収束場がある。
- (4) 中心接近に伴い気圧傾度が大きい領域では風が強まることが多い。

正答 (3)

#### 例題 15

日本付近に現れた背の高い温暖型の移動性高気圧の一般的な特徴について正しいものはどれか。

- (1) 移動速度が速いので、良い天気は長続きしない。
- (2) 移動速度が遅いので、良い天気が続く。
- (3) 移動速度は速いが、良い天気が続く。
- (4) 移動速度が遅いが、良い天気は長続きしない。

正答 (2)

#### 例題 16

雷雲についての記述で誤りはどれか。

- (1) 雷雲は、乱気流、着氷、電光、雷電、降水、突風性の地上風、ひょうや竜巻を起こす。
- (2) 雷雲活動は、水平面では通常数 km から 10 数 km の平面にわたるくらいのもが多い。その雷雲細胞は、孤立した 1 つの細胞の場合もあり、いくつもの細胞の集団状態もある。孤立した 1 つの雷雲細胞を考える場合、雷雲細胞の生涯を積雲段階、最盛期、消散期の段階に分けることができる。
- (3) 最盛期の雷雲の雲頂は、5,000ft から 10,000ft である。
- (4) 寒冷前線の雷雲は、鉛直に発達する傾向にあり、その雲底は地面近くまで接近している。強い風の息があつて地上では風向の急変が起こる。

正答 (3)

例題 17

気団性雷雨についての記述で誤りはどれか。

- (1) 前線や他の総観規模の強制メカニズムとは無関係な雷雨である。
- (2) 高温多湿な夏の日の日射に応答して午後に発達し、日没後すぐに消滅するのが典型的である。
- (3) 鉛直ウインドシアを伴い長時間持続する特徴がある。
- (4) 一つの積乱雲でできていることもあれば、複数の積乱雲でできていることもある。

正答 (3)

例題 18

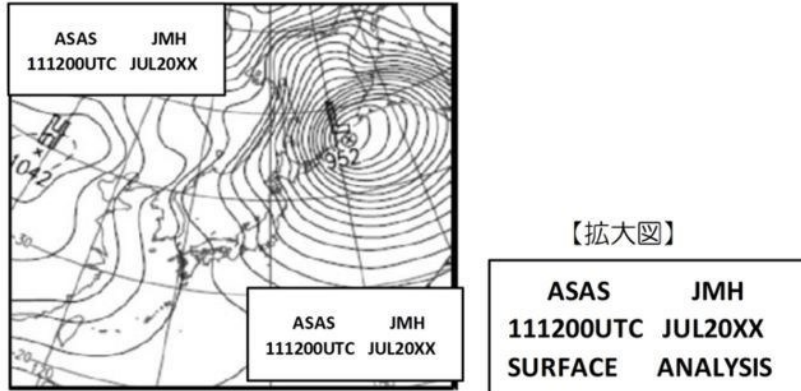
運航用飛行場予報気象通報式 (TAF) の有効時間について正しいものはどれか。

- (1) 10時間
- (2) 20時間
- (3) 30時間
- (4) 40時間

正答 (3)

例題 19

下の地上天気図における解析日時で正しいものはどれか。ただし、日本の日時とする。



- (1) 11日 15時 00分
- (2) 11日 21時 00分
- (3) 12日 03時 00分
- (4) 12日 09時 00分

正答 (2)

例題 20

日本列島に影響する二つ玉低気圧の特徴で誤りはどれか。

- (1) 低緯度で発生する熱帯低気圧の一つである。
- (2) 南岸低気圧と日本海低気圧の特徴を併せ持つ。
- (3) 雲と降水の範囲が広い。

(4) 一つにまとまり急激に発達することがある。  
正答 (1)

## 航空法規（P 2 8）

### 例題 1

航空法第 2 条（定義）で定める「航空機」について、次の文章の「 」(1)～(4)のうち誤りはどれか。

この法律において「航空機」とは、人が乗って(1)「航空」の用に供することができる飛行機、(2)「回転翼航空機」、滑空機、(3)「無人航空機」その他政令で定める(4)「機器」をいう。

- (1)「航空」
- (2)「回転翼航空機」
- (3)「無人航空機」
- (4)「機器」

正答 (3)

### 例題 2

航空法第 2 条（定義）で定める「航空機」について、次の文章の「 」(1)～(4)のうち誤りはどれか。

この法律において「航空機」とは、人が乗って(1)「航空」の用に供することができる飛行機、(2)「回転翼航空機」、滑空機、(3)「無人航空機」その他政令で定める(4)「機器」をいう。

- (1)「航空」
- (2)「回転翼航空機」
- (3)「無人航空機」
- (4)「機器」

正答 (3)

### 例題 3

航空障害灯の種類で誤りはどれか。

- (1) 高光度航空障害灯
- (2) 中光度白色航空障害灯
- (3) 中光度赤色航空障害灯
- (4) 低光度白色航空障害灯

正答 (4)

### 例題 4

航空機の登録についての説明で誤りはどれか。

- (1) 航空機は、登録を受けたときは、日本の国籍を取得する。
- (2) 登録航空機について所有者の氏名を変更した場合は、変更登録を行う必要がある。

(3) 移転登録とは、登録航空機について所有者の変更があった場合は、移転登録を行う必要がある。

(4) 登録航空機について名称及び住所を更新した場合は、更新登録を行う必要がある。

正答 (4)

#### 例題 5

耐空証明についての説明で誤りはどれか。

(1) 政令で定める航空機を除いて、日本の国籍を有するものでなければ受けることができない。

(2) 航空機の用途及び国土交通省令で定める航空機の運用限界を指定して行う。

(3) 初級滑空機及び動力滑空機に耐空証明は行われない。

(4) 耐空証明の有効期間は 1 年である。ただし、航空運送事業の用に供する航空機は国土交通大臣が定める期間である。

正答 (3)

#### 例題 6

航空従事者技能証明についての説明で誤りはどれか。

(1) 技能証明は、自家用操縦士や事業用操縦士などの種類別に行われる。

(2) 技能証明は、国土交通省令で定める年齢及び飛行経歴その他の経歴を有する者でなければ受けることができない。

(3) 技能証明は、航空機の等級について限定することができる。

(4) 技能証明の取り消しを受けた日から 2 年を経過しない者は、技能証明の申請をすることができない。

正答 (1)

#### 例題 7

航空身体検査証明についての記述で誤りはどれか。

(1) 第一種航空身体検査証明書を有する者は、第二種航空身体検査証明書を有する者とみなす。

(2) 保有する航空身体検査証明書の有効期間が満了する日の 45 日前から新たに航空身体検査証明書の交付を受けることができる。

(3) 20 歳の者が第二種航空身体検査を交付された場合、航空身体検査証明の有効期間は必ず 5 年である。

(4) 航空身体検査証明の有効期間が満了する日前に新たに航空身体検査証明書の交付を受け、これを受領したときは、当該期間は、満了したものとみなす。

正答 (3)

#### 例題 8

航空法施行規則第 174 条 (最低安全高度) の条文の「 」(1) ~ (4) のうち誤りはどれか。

人又は (1) 「市街地」の上空にあつては、当該航空機を中心として水平距離 (2) 「六百メートル」の範囲内の (3) 「最も高い障害物」の上端から (4) 「三百メートル」の高度

- (1) 「市街地」
- (2) 「六百メートル」
- (3) 「最も高い障害物」
- (4) 「三百メートル」

正答 (4)

#### 例題 9

航空灯火の種類で誤りはどれか。

- (1) 航空灯台
- (2) 飛行場灯火
- (3) 非常設備灯火
- (4) 航空障害灯

正答 (3)

#### 例題 10

航空法施行規則第 5 条の 4 (飛行規程) で定める飛行規程に記載する事項について誤りはどれか。

- (1) 航空機の構造
- (2) 非常の場合にとらなければならない各種装置の操作その他の措置
- (3) 航空機の限界事項
- (4) 航空機の概要

正答 (1)

#### 例題 11

航空法第 70 条 (アルコール又は薬物) について、空欄 (a) ~ (d) に入る言葉の組み合わせで正しいものはどれか。

(a) は、アルコール又は薬物の (b) により航空機の (c) ができないおそれがある間は、その (d) を行つてはならない。

- (1) (a) 運航乗務員 (b) 摂取 (c) 正常な運航 (d) 航空機の運航
- (2) (a) 航空機乗組員 (b) 摂取 (c) 操縦 (d) 航空業務
- (3) (a) 操縦士 (b) 影響 (c) 操縦 (d) 航空機の操縦
- (4) (a) 航空機乗組員 (b) 影響 (c) 正常な運航 (d) 航空業務

正答 (4)

#### 例題 12

航空法第 71 条の 2 (操縦者の見張り義務) の説明で誤りはどれか。

- (1) レーダーサービスを受けている場合にも見張りの義務はある。
- (2) 雲が多い所を飛行中にも見張りの義務はある。
- (3) 当該航空機外の物件を視認できない気象状態の場合にも見張りの義務はある。

(4) 夜間飛行中にも見張りの義務はある。

正答 (3)

#### 例題 13

航空法第 71 条の 3 (特定操縦技能の審査等) に関する説明で誤りはどれか。

- (1) 特定操縦技能の審査とは、航空機の操縦に従事するのに必要な知識及び能力であってその維持について確認することが特に必要であるものを有しているかどうかについて操縦技能審査員が行う審査である。
- (2) この審査に合格していなければ、航空機に乗り組んで、その操縦に従事することはできない。
- (3) この審査に合格し操縦を行うことができる期間は、国土交通大臣が許可した場合を除き 2 年である。
- (4) この審査は、口述審査のみで行うことができるものとする。

正答 (4)

#### 例題 14

航空法施行規則第 164 条の 15 (出発前の確認) で定める機長が出発前に確認しなければならない事項で該当しないものはどれか。

- (1) 当該航空機及びこれに装備すべきものの整備状況
- (2) 航空機が滑空機を曳航する場合の安全上の基準
- (3) 当該航行に必要な気象情報
- (4) 積載物の安全性

正答 (2)

#### 例題 15

航空法施行規則第 165 条 (事故に関する報告) により、報告しなければならない事項について誤りはどれか。

- (1) 事故発生時の気象状態
- (2) 事故の発生した日時及び場所
- (3) 機長又は当該航空機の使用者の氏名若しくは名称
- (4) 人の死傷又は物件の損壊概要

正答 (1)

#### 例題 16

航空灯火の種類で誤りはどれか。

- (1) 航空灯台
- (2) 飛行場灯火
- (3) 非常設備灯火
- (4) 航空障害灯

正答（3）

例題 17

航空法第 84 条（編隊飛行）の規定により、機長が編隊飛行を行う前に打ち合わせる内容で明確に規定されていないものはどれか。

- （1）航空機相互間の合図の方法
- （2）編隊の型
- （3）旋回その他行動の要領
- （4）発航場所までの移動方法

正答（4）

例題 18

航空法第 99 条（情報の提供）の条文の「 」で囲まれる部分（1）～（4）のうち誤りはどれか。

（1）「国土交通大臣」は、（2）「国土交通省令」で定めるところにより、（3）「航空機運航者」に対し、（4）「航空機の運航」のため必要な情報を提供しなければならない。

- （1）「国土交通大臣」
- （2）「国土交通省令」
- （3）「航空機運航者」
- （4）「航空機の運航」

正答（3）

例題 19

飛行計画を通報した航空機が航行している間に国土交通大臣に位置通報をしなければならない場合に、通報しなければならない事項で誤りはどれか。

- （1）当該航空機の登録記号又は無線呼出符号
- （2）当該地点における時刻及び高度
- （3）次の位置通報点の予定到着時刻及び予定高度
- （4）予報されない特殊な気象状態

正答（3）

例題 20

航空法第 99 条（情報の提供）の条文の「 」(1)～(4)のうち誤りはどれか。

（1）「国土交通大臣」は、（2）「国土交通省令」で定めるところにより、（3）「航空機の所有者」に対し、（4）「航空機の運航」のため必要な情報を提供しなければならない。

- （1）「国土交通大臣」
- （2）「国土交通省令」
- （3）「航空機の所有者」
- （4）「航空機の運航」

正答 (3)